

靖国参拝と比較し、いかに日本政府が遺骨収集を怠ってきたかを示す書証

眠れぬ頭蓋骨60年

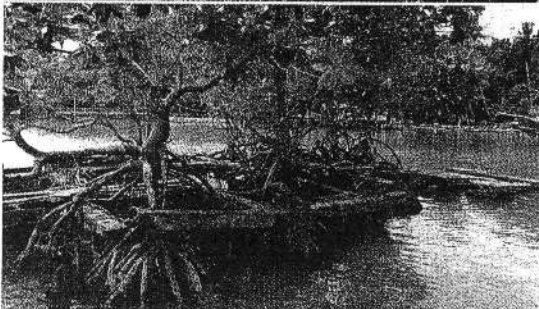
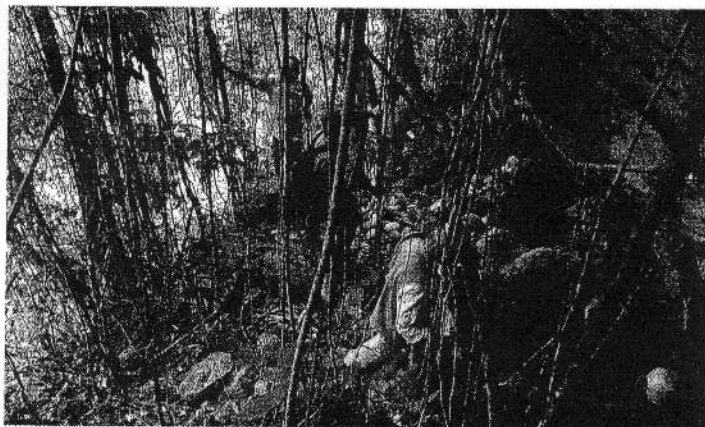
眠れぬ頭蓋骨 60年

ジャングル岩場、足の踏み場なし

ニューギニア島 5トール四方に散乱

どんなに踏まないよう注意していても、ふと気がつく紙の下に遺骨がある。ニューギニア島北部のジャヤプラ(旧ホーランシア)の海辺の村から漁師の小舟で十分足らず。険しいジャングルをつた一角には、足の踏み場がないほど大量の遺骨が野ざらしになっていた。日本からはるか遠い戦場に送られた兵士たちの亡きからとみられる。戦後六十年以上、忘却のなかにあった戦争の傷あと。いまだに永久(とむ)の眠りにつけない人々の姿が、そこにあった。

インドネシア・ジャヤプラ市で、加古陽治(加古陽治) 〇面参照



⑤海沿いのジャングルに入ると、大量の遺骨が散乱し、野ざらしになっていた。⑥現場近くには旧日本軍の上陸艇とみられる残骸があった(インドネシア・ジャヤプラ市で、加古陽治撮影)

岩の割れ目に転げ落ちた頭蓋骨もある。目のあった部分から、深さわずか10センチほどの穴に落ちていた。遺骨は四方に散乱し、足の踏み場がないほど大量の遺骨が野ざらしになっていた。日本からはるか遠い戦場に送られた兵士たちの亡きからとみられる。戦後六十年以上、忘却のなかにあった戦争の傷あと。いまだに永久(とむ)の眠りにつけない人々の姿が、そこにあった。

おびただしい数の頭蓋骨(すがい)・骨。バヤンの木の根をロープ代わりに坂をよる。ジャングルの入り口付近に庭(ひさし)のようにつけられ、土場の下に、頭や体の骨が散乱していた。歯がしかりと残っているものもあり、すり減っていない牙の状態が良く、若者のようだった。

遺骨収集 国は本腰入れよ

戦後二十年余しかたななうに(一)部地域をめぐり、遺骨収集はあつた。先の大戦時、海外で亡くなった約二百四十万人の日本兵のうち、百八万人の遺骨が今も野ざらしになっている。沈没船の遺骨など、兵士の生前の姿を知る遺族の高齢化も進む。厚生労働省は、ようやく国内情報収集の専門チームをつくるなど、遺骨収集を進める方針だが、残された時間は長くない。

遺骨収集 国は本腰入れよ

遺骨収集 国は本腰入れよ

遺骨収集 国は本腰入れよ

遺骨収集 国は本腰入れよ

遺骨収集 国は本腰入れよ

遺骨収集 国は本腰入れよ

旧ホーランシアにいた旧日本軍部隊
【陸軍第13軍関係】(約6600人)
第3野戦輸送司令部
南洋第6支隊
第54兵站(べいたん)地区隊主力
独立自動車第42大隊の一部
海上輸送第4大隊
第31、第49砲台(ていはく)場司令部主力
第3揚陸隊の一部
軍通信隊の一部
軍補給諸隊(じょう)の一部
第79兵站病院
第113兵站病院
建築勤務第49中隊の一部
特別建築勤務第26中隊の一部
【陸軍第4航空軍関係】(約7000人)
第6飛行師団司令部
同飛行師団の大部分と航空地上部隊
独立機関砲第38、第39中隊
野戦高射砲第66、第68大隊
航空第3大隊
【海軍関係】(約1000人)
第9艦隊司令部
第30警備隊
第27特別根拠地隊
第8建設部(軍属)
第12港務部
第2通信隊
第2特別陸戦隊隊付飛行機隊と第5衛所隊
(主)1944年4月の米軍上陸当時。防衛庁戦史
案「南太平洋陸軍作戦(5)」による